

# 学校関係者評価委員会

2025年6月28日 開催

委員長(学外) 佐伯 鋼兵  
委員(学外) 丹野 泰久  
委員(学外) 浜野 洋子  
委員(学外) 岡本 春雄  
委員(学外) 齋藤 一郎  
委員(学外) 浅見 純一

## 学校側

校長 増村 信雄  
法人事務局長兼事務長 島田 美紀  
法人本部長 千住 義祐  
総務課長 佐藤 義博  
教務課長 原田 怜

## 1 学校の教育目標

変更なし

## 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度に定めた「重点的に取り組むことが必要な目標や計画」は、少子化の時代に安定した運営を持続していくためにも法令を遵守しつつ教育内容のさらなる充実を図ることである。

具体的には、コロナ禍で十分な実践経験を得られなかった高校新卒の学生がもつ悩みや、特徴的な行動傾向に対応したサポートの充実と、学習意欲を高める魅力的な教育計画の策定である。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

変更なし

## (2) 学校運営

- ⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
- ⑧ 情報システム化等による義用務の効率化が整備されているか

教育活動等に関する情報公開はホームページ移行が遅れており、情報システム化等による業務の効率化については、人事勤怠システムの導入や校用車の購入等の優先事項により、実施はしているものの予算を十分に準備できず評価は4に留まる。

## (3) 教育活動

- ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

選択科目では現役で理美容師として働いている講師の派遣を業界に依頼している。一年次から技術デモンストレーションをサロンワーク授業に取り入れた。

このことは高く評価でき、さらに進めていくべきである。

- ⑩ 資格取得などに対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ

国家試験に向けて実習と学科の連携を意識し、合理的なカリキュラム編成がなされている。ネイル、メイクについては検定を念頭にしたカリキュラムを立て、希望者には無償もしくは実費のみの講習会を企画して幅広い実践力の獲得をしたことは高く評価できる。

## (4) 学修成果

- ③ 退学率の低減が図られているか

退学率の低減が図られているかについては、1年次に9月末の期間休みを利用し担任との二者面談を2024年度は強化しているが充分とは言えず評価を4とした。退学率については4%という数字が報告され、関係者委員より主な退学理由の質問があった。これに対して学校側から、特に人間関係の問題や金銭的な困難さが退学の主要因であることが詳しく説明された。

## (5) 学生支援

- ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか

2024年は、コロナ禍以前に取り組んできた従来の課外活動が実施できた。

春日部支援学校への地域ボランティア、さいたま市主催の「浦和おどり」、講談社主催の「キッズ・メイク」ボランティア等、様々な活動に学生が任意参加した。

## (6) 教育環境

最新設備での実習、IWBを使用した授業など環境は引き続き高く評価される。

## (7) 学生の受け入れ募集

従来の高等学校でのガイダンス、出前授業、保護者向けの説明会に加えて、施設見学は高校生だけでなく高校 PTA にも実施している。学費は実際に卒業生が支払った金額を明示してパンフレットやホームページに掲載している。情報公開は監督官庁の定める基準に従って適正に行われている。

#### (8) 財務

現在は安定した財務基盤を以って運営されている。財務状況は埼玉県情報公開条例の規定に基づきホームページに常時公開されている。

#### (9) 法令等の順守

専修学校設置基準や理容師・美容師養成施設指定規則、その他の関係法令を遵守した適正な運営を行っていることは評価できる。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

2024 年度は埼玉県の県民生活部主催の「リアル体験教室」や近隣の中学校のインターンシップなど多くの地域貢献事業に参加したことが評価された。

#### 総括

概ね本校における学校運営は適正なものと評価され、自己評価も妥当である。

教育理念・目の達成に向けて、三つのポリシーの明確化や、教育の一貫性について評価される。退学率と学生支援については、メンタルヘルスケアの強化と経済的支援の拡充を検討することが提案された。

委員会は学校評価報告書を 6 月 13 日の理事会に提出し、その後ホームページで公表することを決定し、本校が法令に則って今後もより良い教育指導を行うことを期待して閉会となった。

以上